

地域の役割

地域の防災活動

◆自主防災組織に参加しましょう

災害時には、いざという時の自らの備え「自助」はもちろん、住民が協力して地域を守る「共助」が重要です。防災における共助の要となり、住民が連携して防災活動を行う組織が自主防災組織です。

竹原市では、地域の様々な活動を中心的に担っていただいている住民自治組織を単位とした自主防災組織の活動を推進しています。

◆自主防災組織の活動



平常時

◆地域内の防災点検

災害発生時に、地域に被害の拡大につながる箇所はないか、また一人暮らしの高齢者世帯など、避難を必要としている人はいないか確認しましょう。

◆防災資機材等の整備

災害発生時に必要とされる資機材を、地域の実情に応じて準備しましょう。また、定期的に点検や使い方を確認しましょう。

◆防災知識の普及

防災マップを活用した防災訓練や防災講習会への参加の呼びかけなどを通して、住民一人ひとりが防災に関心をもち、準備するよう取り組ましましょう。

◆防災訓練の実施

災害を想定した避難訓練や消火器の使用法、応急手当など、防災活動に必要な知識や技術の習得に取り組ましましょう。

災害時

◆初期消火

火の始末、消火をする

◆安否確認

避難者の把握

◆避難誘導

避難所への避難、要配慮者の支援

◆救出や救護

負傷者の救出、救護所への搬送など

◆情報の収集や伝達

正確な情報の収集とその伝達

◆避難所運営の協力

水や食料などの配給、炊き出しなどの給食・給水活動など



◆地域住民のつながりを強めて災害に備えましょう

平成30年7月豪雨災害を経て、市内各地で復旧・復興に向けた取り組みが進む一方、今後の防災・減災に向けた取組も重要となっています。市では災害からの「逃げ遅れゼロ」に向けて、住民同士の「呼びかけ」により、早期避難を行うための体制づくりを進めています。

Qポイント

- ・ハザードマップを活用し、地域の災害リスクを住民で共有しましょう!
- ・率先避難や呼びかけ避難を行うためのグループの編成や連絡網の整備など、具体的な体制を作りましょう!
- ・避難情報や気象情報を入手し避難を呼びかける防災リーダーを育成しましょう!
- ・継続的に避難訓練を実施し、必要な体制の見直しを行いましょう!

竹原市では、地域の連携や防災力の強化を図るため、ボランティアとして地域が行う防災活動等を企画、参加するなど、地域の防災担当の役割を担っていただける方を「地域防災リーダー」として認定しています。

◆まずは自分の命を守るための行動を

一方で、もし災害などが発生した際に避難を呼びかけ合う前に必要となるのは、自分自身の安全を確保することです。そのためには、一人一人が日頃から自分の地域のハザードマップや避難所までの経路などを確認し、災害に対して備えておくことが重要です。皆さんも改めてご自身の身の回りの地域の情報や、非常持ち出し品などを確認しておきましょう。

自助・共助の考え

- ・災害時には、まず自分を助けてください。
- ・そして、家族を助けてください。
- ・そして次に、近所の人を助けてください。
- ・そして余力があれば、町内の要配慮者の方を助けてください。

◆地域ぐるみで力を合わせて要配慮者を災害から守ろう

災害のときこそ、手助けを! 身近な要配慮者

要配慮者とは、災害時に自力では迅速な避難行動や的確な情報収集が困難な方々のことです。地域ぐるみの防災対策の1つとして、日頃からコミュニケーションを図り、災害時には、力を合わせて避難支援できるように準備しておきましょう。

要配慮者って?

- 高齢の方
- 障害のある方
- 乳幼児
- 妊産婦
- 外国人の方など

要配慮者は災害に対して

- 身に迫った危険情報を察知しにくい
- 助けを求めたり、助けてほしい内容を伝えにくい
- 身を守る行動を迅速にとることが難しい

◆要配慮者の方への支援のポイント

目が不自由な方

- ◆杖を持たない方の手でひじのあたりを軽くつかんでもらい、半歩前を歩く。(杖や腕を引っ張らない)
- ◆行き先や方向、段差など目の前の状況を知らせながら誘導する。



車いすを使う方

- ◆階段では3~4人以上で援助し、上がる時は前向き、下りるときは後ろ向きで移動する。
- ◆車いすが使えない場合は、おぶって避難する。



乳幼児を抱える方・妊婦

- ◆声をかけたり、荷物を持つなど身体的・心理的な負担を和らげる。



耳が不自由な方

- ◆筆談や身振り、手のひらに指で字を書くなどして伝える。
- ◆話すときには、口を大きくはっきり、ゆっくり動かす。



高齢者・傷病者の方

- ◆緊急時にはおぶって避難する。
- ◆1人での援助が困難な場合は、複数で担架や毛布などを使って避難する。



外国人の方

- ◆できるだけ簡単な日本語で伝える。
- ◆言葉が通じない場合は、身振り手振りで避難場所へ誘導する。



◆要配慮者側の備え

わが家の状況を自主防災組織や自治会に説明し、適切なサポートを依頼するなど、オープンな備えが必要です。また、必要な薬や処置がある場合、それらを書いたメモを常に携帯するようにしましょう。



お薬手帳